

CONTENTS

2-3 〈新シリーズ〉UNICEF最前線
今そこにある悲惨と危機 第1回
地球は、未来の子からの借りものだ

4 ユニセフシアター第4回上映会
『ブレッドウィナー』報告
映画から男女平等を考える



水没の危機

太平洋に浮かぶ珊瑚礁でできた33の島からなる、キリバス。今年5月～6月に訪れたアグネス・チャン ユニセフ・アジア親善大使は最前線を歩き、現地の子どもたちや家族と交流した。そして、こう述べた。「キリバスの国土は水没の危機にある。CO₂を大量に排出する、私たち先進国の責任だ」
©日本ユニセフ協会/Hironobu Nozawa

地球は、未来の子からの借りものだ

太平洋の島嶼国キリバスだけでなく、海面の上昇は世界中で報告されている。地球温暖化に伴う異常気象は、日本でも深刻だ。震災で苦しむ能登半島が、今年9月下旬、豪雨に襲われたのも、その現われではなかったか。地球温暖化は今、10月のノーベル平和賞によって改めて深掘りされた核の脅威と共に、万物のいのちの行く末に、黄信号や赤信号を灯している。(平田篤州)

この地球は
先祖からゆずり受けたものではない。
未来の子どもたちから
借りているものだ。

東京都品川区高輪にあるユニセフハウス。展示フロアの壁に掲げられていた、アメリカ先住民の言葉に引き付けられた。

(そうか。これから生まれてくる赤ちゃんにこそ、地球を、美しい青い星のまま引き継がなければならないのだ) そう得心していると、ガイドボランティアの阿原孝之さんが言った。

「国連のユニセフ本部(ニューヨーク)にも、掲げられています」

2度納得、である。

「国が、どんどん沈んでいく」と阿原さん。ユニセフ・アジア親善大使のアグネス・チャンさんがキリバスを訪問したことに触れて、「キリバスのせいじゃない。温暖化をつくりだしている私たちに責任がある」と、親善大使の言葉を反芻した。

「私たち先進国に原因がある」

キリバスの人口は、約13万人。東西4500km、南北2050kmの広大な海域に、33の珊瑚礁でできた有人無人の島が散在している。

排他的経済水域の広さは、世界第3位。有人島の総面積は、日本の対馬と同じぐらい。

「最も高い場所で海拔3m。海面上昇で、将来、国土が水没する虞おそれがあります」

親善大使は、Instagramなどでこう話している。

実際、世界銀行(本部・ワシントンD.C.)は「首都のあるタラワ島の50～80%が、2050年ごろまでに浸水する虞がある」と警鐘を鳴らしている。

山や川がなく、唯一の水源地は地下水だが、近年は暴風雨や高潮で海水がまざり始めている。一方で、干ばつも起きて、命綱と言っていい雨水が減

少している。

「台風のような暴風雨や干ばつは、キリバスではなかったそうです。国からの飲料水の供給はありますが、足りません。国民は『いつでも水が飲める生活』を切望しています」(アグネス大使)。

また、海水温度が上昇すると、珊瑚が白化(死滅)する。珊瑚礁に生息する生き物は居場所を失う。それを食べる魚も、生きていけなくなる。

「魚が移住した。先進国の漁船が来なくなり、キリバスの貴重な収入源になっている入漁料が落ち込んでいます」

国際エネルギー機関(IEA、本部・パリ)の調査では、キリバスの二酸化炭素排出量は例年190位代。日本は、中国、アメリカ、インド、ロシアに次ぐワースト5位。つまり、二酸化炭素をほとんど出していないキリバスが、先進国による気候変動の影響を真っ先に受けているのだ。

キリバスの温室効果ガスが、世界で占める割合は、0.01%である。

阿原さんが繰り返したように、アグネス大使は、映像を通じて、何度もこう訴えている。

「私たちに原因があるのです」



キリバスの親子 © 日本ユニセフ協会 / Hironobu Nozawa

毛布にくるまれた星

そもそも、温室効果ガスとは何か。

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンなどだ。このうち二酸化炭素が7割以上を占める。

太陽光（熱）は地球に届いた後、放射されて一部は宇宙に帰って行くが、その途中で待ち受けているのが、地球をぐるりと囲む温室効果ガスのカーテンだ。放射熱を取り込んで、大気を暖かくする性質がある。

この温室効果ガスのカーテンによって、地球の平均気温は15℃に保たれている。これがまったくなくなってしまうと、-18℃になる。

だから、温室効果ガスは、それ自体は悪者ではない。むしろ、私たちの快適な生活を守ってくれている味方だ。

問題は、人間の活動によって温室効果ガスが増えすぎていることだ。石炭や石油の消費などにより、大量の二酸化炭素が放出される。

これが、心地よいカーテンを、分厚い毛布のようにしてしまっ地球を包み込み、暖めてしまう。

一方、光合成によって二酸化炭素を吸収する森林が伐採されて減少。二酸化炭素の増加に、拍車をかけている。

気候の異変と地球温暖化の因果関係は、どうか。国立環境研究所・地球環境研究センター（茨城県つくば市）は、次のように述べている。

「長期的な気温の上昇に伴って、大気中の水蒸気が増える。すると、雨をもたらす低気圧などの強さが変わらなかったとしても、水蒸気のみで割増しで雨が降る傾向になり、大雨の頻度が徐々に増えていく」

昨今の「線状降水帯」や「過去に例のない、命にかかわる暑さ」などの気象用語が、脳裏をよぎる。

地球環境サミットとパリ協定

ブラジルのリオデジャネイロで、国連主催の地球環境サミットが開かれたのは1992年6月。国連気候変動枠組み条約が採択された。世界各国が温室効果ガスの削減目標を初めて定めた97年の京都議定書への橋渡しの役割を果たしたのが、この条約だった。

国連の子ども白書をもとに「汚染という熨斗をつけたまま、この星を子どもたちに引き継ぐのか」との声が上がったのも、このころだった。

46億年前に誕生した青い地球。「毛布」にくるまれて、どうなるのか。

2015年12月にパリで開かれた国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）で「パリ協定」が採択された。地球を守るために、世界が一体となって取り組む「2020年以降」の温暖化対策を定めた国際協定である。

世界の温室効果ガスの排出量をゼロにして、今世紀末の気温上昇を1850年ごろの産業革命前に比べて2℃未満、できれば1.5℃に抑えることをめざしている。

発効は2016年11月。各国は2020年から削減目標を掲げて国内対策をスタート。互いに検証したうえで、5年ごとに見直す。

日本は「2030年度までに2013年度比で26%削減し、2050年には80%削減する」ことを目標にしている。

SDGsを推進、精力的に現地活動も

国連加盟の全193カ国が2015年9月に採択した、SDGs（持続可能な開発目標）も、環境問題を大きなテーマとして取り上げている。貧困・エネルギー・平和・健康と衛生……など17種類の施策を、2016年から30年までの15年間で達成する「世界共通の目標」として設定された。

ユニセフハウスにも、SDGsの目標や取り組みが、子どもたちの興味をそそる工夫をしながら、展示されている。

ユニセフチームは、温暖化の現場でも活動している。

キリバスの最大の死因は下痢だ。水質汚染が原因となっており、「水と衛生」の教育に力を入れている。キリバス政府と連携して、ワクチン接種も進めている。

浸水や水没の危機を目の前にして、あるキリバスの若い女性が言った。

「私は、子どもを産まないほうがいいのかな」

それを聞いてアグネス大使は、こう語った。

「とても悲しい、申し訳ない気持ちになりました。この国の若者の未来を私たちが壊しているかもしれない。責任は、私たちにある……」

そして、続けた。

「きょうはキリバスの問題、でも、あすは我が身。私たちの国の問題です。キリバスでの成功が、好事例になる。この国を、なくしてはいけません。キリバスの子どもたちに、未来を残しましょう」

そう。〈この地球は、先祖からゆずり受けたものではない。未来の子どもたちから、借りているもの〉なのだから。



ユニセフハウス。JR品川駅から徒歩7、8分。
ユニセフブルーが目飛び込む



米先住民の言葉（左）と阿原孝之さん